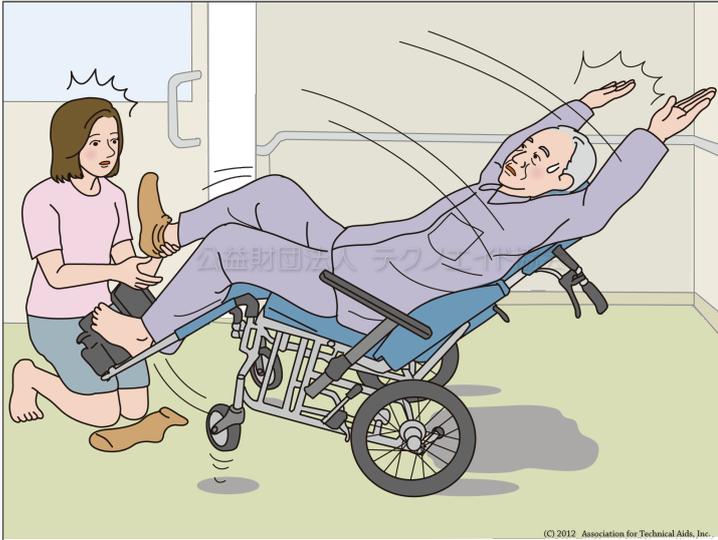


Case : 155

バックサポートが倒れていたことで傾き易くなっており、ひっくり返りそうになる

場面の説明

利用者に靴下をはかせるため、介助者が足を持ち上げたところ、車いすごとひっくり返りそうになった



利用シーン	 その他
主な利用場所	 寝室
	 リビング・居間
	 ダイニング・食堂
介護保険の種目	 車いす
分類コード (CCTA95)	122190 (姿勢変換機能付き車いす)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

リクライニング式の車いすでは、バックサポートを倒した際に重心が偏り後方に転倒しやすくなります。静止している時には転倒しなくとも、前方で足を持ち上げるような介助を行ったり、段差を越えようとした際にバランスを崩しそうになりあわてることが多いようです。一般には安全策として転倒防止バーなどが装着されていますので、しっかりと機能しているか日ごろの確認を大切にしてください。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：介助方法が不適切だった
- 人：転倒防止バーを外していた
- 人：介助者がバランスを崩すと思っていなかった
- 環境：転倒防止バーの重要性やこのような介護方法の危険性について教えてくれる人が周囲にいなかった

日付：	所属：	氏名：
-----	-----	-----

Case : 155

バックサポートが倒れていたことで傾き易くなっており、ひっくり返りそうになる

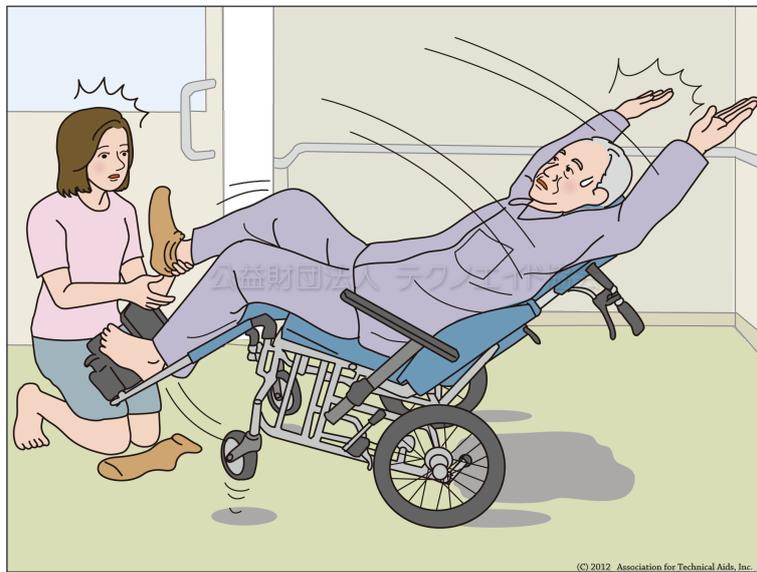
事例詳細



回答前に見ないこと

場面の説明

利用者に靴下をはかせるため、介助者が足を持ち上げたところ、車いすごとひっくり返りそうになった



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ